

平成30年度 第2回太田市公共事業入札等監視委員会 委員コメント

小川委員長

入札制度の運用としては適正になされているものと認めます。

平成30年度下半期は、審議対象の案件としてここ数年続いた大型の公共工事はなく、むしろ共同溝整備や下水道の長命化事業など随時行われる基礎的なインフラの整備更新の事業が目についた印象です。

最低制限価格が事前公表されている案件のみならず、事後公表の案件についても応札業者の積算によってくじ引きになる確率が高くなって来ているという説明もありました。

市場の需給、品質の確保や応札業者の育成など、考慮する要素によってどういった入札制度を設計するかは優位性は変わってくるのだと思いますが、意欲ある業者が創意工夫で質と効率性を高めていくことができるような入札制度を時機に応じて検討いただくことも大切かと思えます。

大谷委員

平成30年度の入札実績は、486件競争入札落札額4,773,980,000円で87.1%の落札率であり、ほとんどが条件付きの一般競争入札であった。最低落札額の基準の評価が今後の課題の一つであろうと考える。

太田市尾島体育館整備事業設計業務委託ではエスキスコンペを採用し効率化が図られていることが確認できました。今後も適正な公共工事の入札執行に向けて監視していきたいと思えます。

長谷川委員

入札金額を算出するために、業者が積算ソフトを使用することによって、積算精度が上がっていることに感心しました。

業者の選定の一つにエスキスコンペを採用していることを知り、どのようなものか興味を持ちました。提案書を提出した業者が提案力を試す場となり、提案者のやりがいとなれば良いと思えます。

また、提案書を提出した業者には報奨金が支払われるということでしたが、私たち製造業も、図面付加工の見積をしますが、時間をかけて受注に至らないことがあります。また、業種によっては、見積代をとるところもあります。良い仕事をするには、それなりのコストが掛かるので良いことだと思います。